

経営比較分析表（令和5年度決算）

大分県 豊後高田市

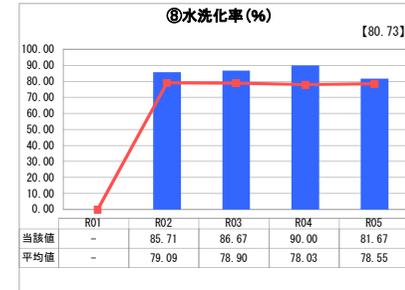
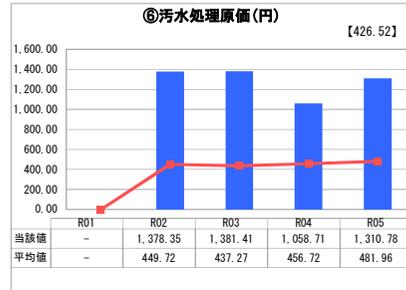
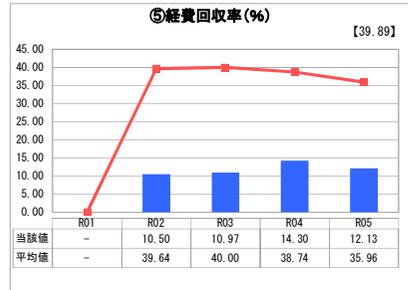
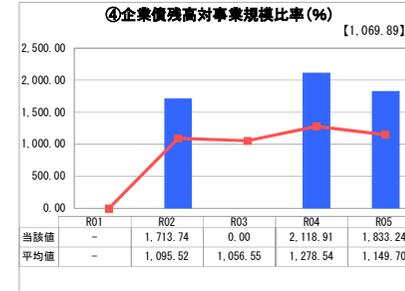
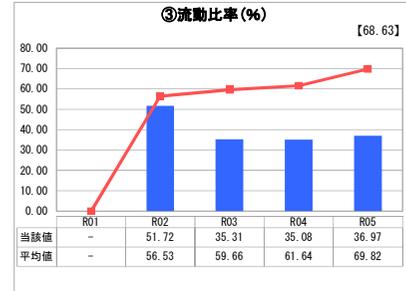
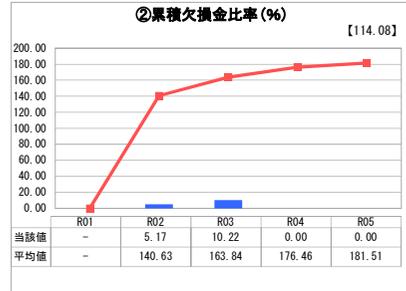
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	漁業集落排水	H2	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家産料金 (円)
-	90.14	0.28	100.00	2,940

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
21,960	206.24	106.48
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
60	0.16	375.00

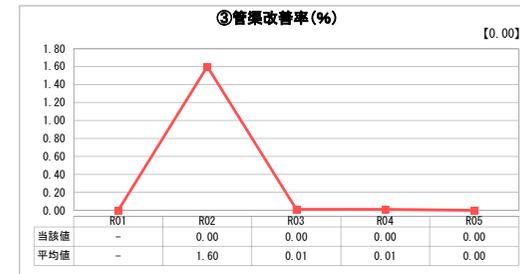
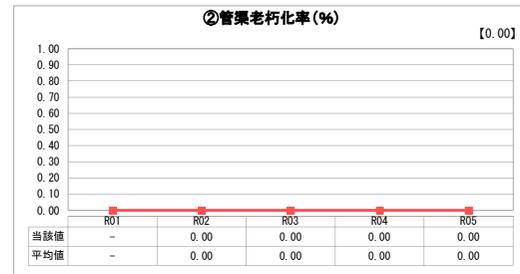
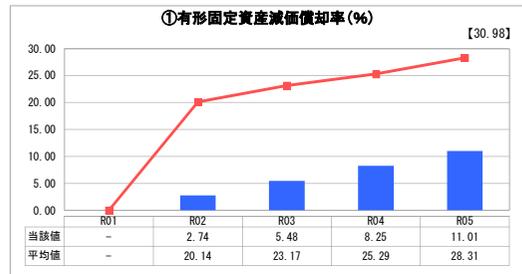
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率：接続世帯は35世帯のため、事業規模が非常に小さく、使用料収入によって、施設の修繕費や維持管理費及び企業債支払利息等が賅えておらず、一般会計からの繰入金に依存している状況となっています。

② 累積欠損金比率：一般会計からの繰入金により、類似団体と比較すると低くなっています。

③ 流動比率：流動負債については主に建設改良に充てられた企業債の元金償還等となっているものの、流動資産については使用料収入が減少したため、流動比率は類似団体と比較すると低い状況となっています。

④ 企業債残高対事業規模比率：企業債償還に対して高資本費対策として一般会計から基準内で繰り込めたため、比率が低下しました。

⑤ 経費回収率：水洗化率は90%ですが、事業規模が小さく使用料収入が少ないため、類似団体と比較して、大きく下回っています。

⑥ 汚水処理原価：施設の経年劣化により修繕等の維持管理費が増加しており、類似団体の約2.7倍の原価となっています。

⑦ 施設利用率：平成10年度に施設整備事業が完了しましたが、過疎化によって大幅に人口が減少し、処理人口は全体計画人口240人の20%程度にとどまっており、利用率も17%程度となっています。

⑧ 水洗化率：類似団体と比較すると同程度となっていますが、過疎化により地区内人口そのものが減少しており、収益の増加が見込めない状況となっています。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率：事業の開始時期が平成8年で、現在のところ更新が必要となる資産はありませんが、耐用年数を考慮し、今後の更新計画を策定する必要があります。

② 管渠老朽化率、③ 管渠改善率：事業の開始時期が平成8年で、現在のところ更新が必要となる管渠はありませんが、耐用年数(50年)を考慮し、今後の更新計画を策定する必要があります。

全体総括

事業の開始時において、全体計画人口を240人としましたが、過疎化によって処理区域内の人口が大幅に減少したため、過大な設備投資となっています。少しでも収入を確保するため、令和2年度から使用料の引き上げを行い、他の下水道事業と料金体系を統一しました。

今後、施設の老朽化に伴う維持管理費の増加や施設更新時期等を迎えるにあたって、個別合併処理浄化槽への切替等、地域の実情に合わせた汚水処理方法を検討する必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。